

2019.11
No.137

膳所 市民ニュース

ZEZE CIVIC NEWS



発行 膳所まちづくり委員会
編集 情報発信部
膳所市民ニュース編集班
(膳所市民センター内 ☎077-524-2205)

市民ニュースHPには、お知らせやトピックス掲載中。

特集 子どもの安全を見守りたい! ひまわり隊の活動を紹介します

「おはようございます。行ってきます！」毎朝、膳所のまちには、小学校に登校する子どもたちの元気な挨拶が聞こえてきます。子どもたちが挨拶するのは、緑色のベストを着た「ひまわり隊」の皆さん。胸にはトレードマークである手作りのひまわりのワッペンが付いています。

ひまわり隊は、小学生たちの登下校時、歩道や車の多い十字路など、危険なところに立ち、子どもたちが安全に通行できるよう見守ってくださっている人たちです。

今号の特集では、膳所の交差点などに立つひまわり隊の活動を、ひまわり隊代表の脇明さんへのインタビューを通して紹介します。



.....*

ヒマな時間を 子どものために使いたい

2005年9月
ひまわり隊創設

10月のとある日、いつもどおり6時に起床し、7時30分に家を出て近所の通学路に向かうひまわり隊の姿が見られました。その人は脇明さん(膳所二丁目)。胸につけたワッペンは、膳所小学校の子どもたちが感謝の気持ちを込めて作った贈り物です。

ひまわり隊が創設されたのは、今から14年前の2005年9月。この頃、近畿各地では、子どもたちが犯罪に巻き込まれる事件が連続して発生。膳所プリングアップの本部長だった脇さんは、P A等と一緒に子どもの見守り活動を進めてい

.....*

子どもから 見守られていたひまわり隊

小野 弘美さん
(木下町)

脇さんの教え子で、ひまわり隊を約10年続けている小野弘美さん。ご家族に不幸があり、見守りを休んでいた時がありました。見守りを再開した日、いつもは小野さんの方が声を掛けていた子どもから、「元気出してね」と声を掛けて

.....*

新一年生と 親御さんの心の支え

武田 志保さん
(膳所二丁目)

脇さんは、幼稚園・保育園を卒園し、春から小学校に通う新一年生の親御さんの心配な気持ちを考え、小学一年生の子どもたちに、ひまわり隊の皆さんの顔を覚えてもらい、親子ともども安心してもらうと、4月早々に1年生との対面の機会を持ちました。

膳所二丁目に住む武田志保さんは、昔を思い出し、「双子が入学した頃、下の子どもはまだ0歳、登下校に付き添う余裕はありません。

.....*

子どもたちと同じ体験を

授業参観・給食試食・
自ら学習も

10月31日、ひまわり隊は、膳所小学校の授業参観と給食の試食に参加しました。脇さんは「子どもたちに膳所のまちをもっと知ってほしい」と昨年からお出前授業も開始。「そのためには私たちも学習を」と、この日は給食タイムの前に、膳所歴史資料室の寺田智次さんから「膳所のお地蔵さん」をテーマにしたお話を熱心に聴いていました。脇さんは「まだまだ、もっとたくさんやりたいこと学びたいことがある」

もらい、花をくれたそうです。「私が見守っていたつもりが、私も見守ってもらっていたんだ。少し元気を取り戻せました」小野さんはこれからもひまわり隊を続けたいと話しておられました。



その時、ひまわり隊の皆さんの見守りのおかげで安心して双子を学校に送り出すことができました。気さくに声を掛けてくださり、優しい方々に見守られていたんだと感謝の気持ちでいっぱいです」と話してくださいました。

ひまわり隊では、約10年前から小学校の協力を得て、年に5回程度、授業参観や音楽会などを見学しています。「見守りだけでは分からない学校での子どもたちの様子を知ること、ひまわり隊の大切な活動のひとつ」。子どもたちにとってもひまわり隊の皆さんと学校で会うのは楽しみのひとつになっているようです。

と目を輝かせて話されていました。

膳所小学校の吉田聡校長は「子どもたちの個性も様子もよく理解して見守りをしています。時には子どもの手を取って校門まで連れてきていただくことも。いつも笑顔で温かく接していただけることに本当に感謝しています」とひまわり隊の活動に感謝と敬意を払っておられます。



子どもたちの見守りを 未来につなぐために

ひまわり隊の会員を
募集しています

「膳所に住む人たちはみんな温かい。困ったときはみんなで声をかけあい、助け合えるまち」と膳所のまちを誇らしげに語る脇さんですが、心配の種も尽きません。最近では近江大橋の無料化以降、通学時間帯の膳所のまちに車の流入が増えてヒヤットすることも多くなったそうです。5月に瀬田で起こった園児の交通事故にも心を痛められ、「膳所交番がなくなり、通学路の整備もなかなか進まない中で、膳所でもあつた悲しい事故が起こるのでは」と心配されています。とは言うものの脇さんは「雨の日も風の日も、体が続く限り見守りを続ける」と力強く話されていました。



創設当時60代だったひまわり隊の皆さんも、今では平均年齢が80歳近くに。未来に見守りをつないでいくために、ひまわり隊は新たな会員を募集しています。子どもの安全を見守るひまわり隊に、あなたの時間を少しお貸しください。

【問】脇明 ☎523-0707



